平成２７年度

創立３６年

安積三小　　学校だより

三しょうの丘　　No.3

（承認　賞賛　奨励）

平成２７年 ６月２６日
安積第三小学校

新聞の投稿欄に、ある母親の記事が載っていました。

心の痛みを教えてくれた長男

我が家の長男は、発達に遅れを持っています。その行動には、随分振り回され、悩みました。ところが、異常ではなく「好奇心が旺盛なのよ」と、個性を認めつつ指導してくださる幼稚園の先生のおかげで、いくつもの壁を乗り越えながら伸びてきました。

しかし、今、新しい大きな壁に直面しています。小学校入学です。この子の成長をタテに見ていくのなら、今後の伸びも確実です。ところが、残念ながら、就学時検診を乗り越えるには、ヨコで見て、同年齢の子と比較して判断しなければなりません。健常児とはちょっと違うなという悲しい判断です。

考えてみるに、何不自由なく、思い通りに、この年まで生きてこられた私と主人です。進学、就職、結婚、すべてが順風満帆。世の中の不幸を横目で見てきた私達です。長男の存在は、そんな私達への警告かもしれません。人を思いやる気持ちを忘れてはいないか、やさしい心を忘れてはいないかと。

長男は「心が痛む」ということが本当にあること、また、真の喜びをも、数多く教えてくれました。

私達には、天から与えられた一生の試練ですが「おい、こら、待て。やさしい心、いたわりの心を忘れるな！」と、小さな全身で私達に訴えてくれているこの子がいる限り、人間としての『心』を忘れないで生きていけそうな気がします。

以前勤務する学校で、ダウン症の新入学児童をもつ母親が、「子どもの将来を考え、通常学級で一緒に教育を受けさせたいのですが・・・」とお子さんを連れて相談に見えました。

迷っていた母親は、いろいろな施設を見学したり、何回か話し合ったりしているうちに、自分の子をヨコの目で見るようになり、特別支援学級を選びました。親として大変つらかったのではないかと、胸中を察しました。そして、「この子がいることによっていろいろなことを教えられ、家の中がかえって明るくなったんです。」という母親の言葉の重みを感じました。

校章の由来

学校だよりの左上に掲げてある校章は、緑が滴る松林の中を切り開いて創立した本校を、松をもってシンボルとしました。校名の安積第三小学校の「安」の字を中心に位置づけ、三小の「三」を松葉の三本をもって替えて、それを支える苞を小学校の「小」と見立てました。「丸三つの松葉」は、思いやり・親切・寛容・愛情・公徳心などの人間性の育成や、調和の取れた人間性を願い、中央の「三つ立ち若松」は、丸の松葉に対して直線的な形を持たせ、自主性を柱として何事にも本気で取り組める子ども、英知・健やか・協調・責任・忍耐・努力を惜しまない姿が込められています。

校章は公募により選ばれたものの中からアイディアを採用して、当時日本女子工業高等学校教諭の佐藤昭一先生によってデザインされました。本校は、今年度で創立３６年となります。

不審者による被害事故防止　「ブザーをならそう！いかのおすしの活用」

○　不審者による被害事故を他人事とは思わないようにして、外出時はなるべく一人にならないようにする。また、防犯ブザーを必ず携行して、ブザーと大きな声を併用する。

○　万が一不審者に遭遇した場合は、「いかのおすし」が即座に対応できるように、常日頃から学校や家庭で確認をする。また、二次被害防止のためにも、躊躇なく 110 番通報をお願いします。（警察署からもそのような指導を受けております）